



森のなかま

2019年 9月号

NO. 137 (継続282号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

(公財) トラストみどり財団主催

第2回ブラッシュアップ研修会 森林土壌について (講義と実習)

日時：令和元年7月7日(土) 10:00-15:00 雨時々曇り

場所：県立21世紀の森 研修室他 研修生：50名

<渡辺 敏幸 12期 写真提供 松本 保 11期>

西では集中豪雨や土砂災害・・・雨は恵みになったり困りものになったり・・・間違っても“コントロール下にありません”など寝言は無し。自然を知り上手に付き合い続けるのが人間の知恵か？

考え様によっては梅雨のこの時期に相応しい研修題に多くの方が関心を示し参加、講義と野外実習にと大変有意義な一日を過ごした。

永年この道に係わられた越地先生の人柄そのものの丁寧な資料とお話は大変判り易く、また内容豊富であった。表相の樹木に目を向けて枝打ち、間伐、下草刈りなどに精を出す我々にとって、深相(土壌)はやや地味なテーマかと思っていたが、以下に示す講義内容は大いに新鮮であった。

①土壌の生成と森林成長への働き

②生成に係わる母材・気候・生物・地形や時間因子など

土と土壌の違いの“なるほど”、また 「森林の機能」の前に「土壌の働き(性質)」があること、土壌の働きを支える各種要因すなわち土壌をよく知ることが森林を知ることになる(と、勝手に得心)。

③土壌の調査法

大変多くの調査項目とその方法の説明のあとの、午後の実地調査は興味深いものであった。

約70cmの穴掘りで、断面に明確な層別を観察し、また同定や物理的測定の実験もでき、講義内容と共に記憶に残る研修であった。

講師：樹木医 越地 正 様

10:00~12:00 森林土壌について

12:40~14:50 実習



越地 講師



受講の様子



実習
穴を掘り土壌の調査

森林部会

2019 年度「下刈り研修会」

日時：2019 年 6 月 29 日（土）9：00～15：00 曇りのち雨

場所：小田原市荻窪（2016 年みどりの祭典で植樹したエリア）研修生：15 名

講師インストラクター：辻村寿氏 9 期、福島孝弘氏 9 期、焼尾徹氏 13 期

参加者：加藤①、小清水⑤、小野⑦、三浦⑧、松山⑩、中村⑪、山口⑪、湯浅⑪、北村⑬、古館⑬、河西⑮、竹内⑮、森⑮

スタッフ：岩田⑭、大見⑮

＜記：大見文夫 15 期、写真提供：岩田典義 14 期＞

梅雨真最中、しかも心配された台風 3 号の影響もさほどなく、県民参加の一般参加者と同時開催の下刈り研修会となりました。

午前中は下刈り作業の習熟とインストラクターとして指導する際の基本的技術の確認を目的として「マニュアル」に沿った作業を実践し進捗状況を見極めた様々な指示を出して一般参加者へ分かりやすい説明と指導、安全面の注意点などインストラクターとしての技術、知識の向上を目指しました。

3 班体制で「よく切れるカマの刈り方」「適切な人員配置」の仕方を中心に習得しました。11 時頃からは本格的な雨となりましたが、指定されたエリアは全面刈り終えることができました。研修ではありますが達成感も味わい、雨天時の対応も確認できました。

バスで午後の会場憩いの森の体験交流センター「きつつき」に移動し、濡れた衣類を着替え昼食を取り、座学を行いました。活発な意見交換、実践や体験に基づく質問や疑問、提案が多く発言され熱のこもった勉強会の場となりました。

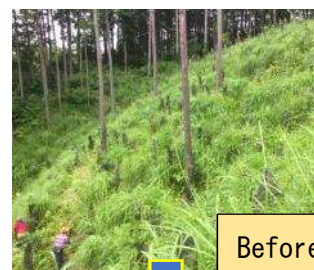
・マニュアルの一致性、内容の再確認 ・統括リーダー、班リーダーの指示の徹底が必要 ・作業開始前に現場全体を見て把握してから作業に取り掛かる ・作業者のレベルに合わせ同一目線で指導する
・熱中症対策の徹底、水を飲んだところまでも確認する（県民参加ではインストラクターは一般参加者の予備の飲料を持つようにしたい。特にお子様に気を配る） ・現場到着後、インストラクターが先頭で進入路作り（藪漕ぎ）をして安全を確認しながら導く。配置を適切に指示する ・参加者に満足感、達成感を味わってもらうことが重要 等々インストラクターとしての対応方法を意見交換しながら確認できた充実した研修会となりました。



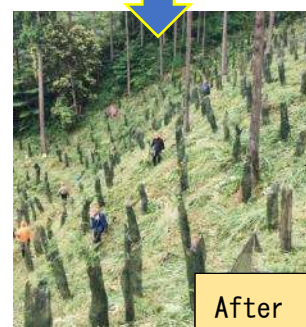
班ごとに研修



座学・意見交換



Before



After

自然観察部会

2019 年度「児童を対象とした自然観察スキル講習」

日時：2019 年 6 月 22 日（土）9：00～15：00 小雨

場所：21 世紀の森

〈記 佐々木秀喜 15 期 写真提供 松本 保 11 期〉

小雨の 6 月 22 日、「21 世紀の森」にて児童対象の NW 活動の自然観察スキル研修会に参加した。

午前には教室の関係で養成講座 16 期生と一緒に座学。講師は箱根を中心に活動する石原和美先生と「おいしい自然園」の一寸木肇先生のお二人。

まずは石原先生。自然観察は特に低学年生とは一緒に楽しみ、気づきを受止めてあげる、こちらから押付けず、あるがまま五感（官）で感じとらせ共感する。何よりもまず危険回避し安全第一に常に楽しい時間にすることを心がけよとのお話。

一寸木先生は「森林を利用した体験学習」について。日本の子供達の現状は、生活経験、自然体験が圧倒的に不足している、NW 活動を通じ学校では教えない貴重な体験をインストラクターの皆さんに期待するとの御教示。

お二人の話から、まずは子供が自然と遊びどっぷり浸ることで、そこから生まれる疑問・知恵・情操が、体力・社会力・生きる力を育てていくんだという大事さを再認識した。

午後は石原先生と、いよいよ自然観察へ。

傘をさし、班に分かれて出発。道に転がるムクロジの黒い種が実から外れて顔を見せ。神代杉の大きな丸太には無数の小さな穴。正体はクマバチの巣とのこと。池ではヤマアカガエルを捕まえ、昆虫ビュアで順番に観察。運動広場では珍しい枝垂れカツラの樹！ 研修棟の裏ではクマノミズキの花がスルメイカ？の香り。森の掃除屋のセンチコガネが生き生きと金属光沢を放ち、側にはトラップにかかったスズメバチの死骸が多数落ちていた。庭木の王様と言われるモッコクの落ち葉は赤く輝き、雨の日の散策を一層楽しいものにした。食堂に戻り自然発見カードを班ごとに作成し発表を聞くと、同じフィールド観察でも多種多様な視点があり、自分とは違う驚き、雨の日には雨の日の新しい発見が無数にあることを学んだ。そんな発見を子供達にも体験してもらい、様々な感動を共有できるインストを目指したいと思った。



石原講師（左）



一寸木講師



午前、16 期のメンバーと座学受講



午後は、自然観察実習

活動短信

今回の掲載は令和元年 6 月 22 日～7 月 30 日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。



ヤマユリ

温風至 7/7～7/11頃

あつかぜいたる
だんだん暑くなる
小暑 初候



フリーイラストより

桐始結花 7/22～7/26頃

きりはじめてはなをむすぶ
大暑 初候

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ
避けてください。改行等の処理に手間を要しますので)
写真もあれば 1 枚添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例: 相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、(看) 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

イ インストラクター (○数字: 期) (研: 研修枠)

以下の本文を概ね 400 字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者もお忘れなく!!)

◆ 松岡小 間伐体験

日 令和元年 年 7 月 3 日(水) 9:15～13:00

曇りのち雨

場 相模原市緑区 長竹承継分収林

参 115 名 大人 10 名 小学生 105 名

財 内田様

イ L 鈴木⑧ 柏倉④ 小野⑦ 有坂⑧ 齋藤⑧

小沢⑨ 松山⑩ 松本⑪ 西出⑫ 星野⑬ 松石⑭

牧石⑭

予定より 30 分ほど遅れてバスが到着し、明るい芝の空間で、間伐体験に向けての会が、はじまりました。装備を付ける手は慣れない様子で、殆どのお子さんに結びなおしが必要な様子でした。入山し現場へ向かう経路は、枝が多く落ちており、目標となる作業場へ、慎重に足を進めました。切り始め、ノコを引く手は、手元が上がって中々スムーズにいきませんが、受け口、追い口、枝払いと進めるうちに、まっすぐ引けるようになる姿も見られました。

昼食時、木を切った感想を聞いてみました。

晴れやかな表情で「気持ち良かった」と元気に答えてくれました。良い香りの素 フィトンチッド のこと、豊かな森に必要な生物多様性のことを児童のみなさんと確認しました。

帰り道、雨が降ってきて、足元が滑るようになってきましたが、グループの道具を持ってくださったお子さんも足元を確認しながらしっかり下山しました。

(記 星野 澄香 ⑬)

かながわしずくちゃん Facebook は下記 URL で見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 鎌倉緑のレンジャー

日 令和元年 6 月 22 日(土) 雨

場 鎌倉中央公園

参 12 名

スタッフ 鎌倉市公園協会 後藤様、千田様

イ 柏倉④ 安部⑤

当初予定は、6 月 15 日(土)でしたが、荒天予想のために一週間延期して、6 月 22 日(土)の実施となりました。が、またしても雨天が予想されたのでした。中止も検討されましたが、前日になって予報が良い方になったので、実行することにしました。開講時には、なんとか降らないでいたが、程なく本降りとなり、雨中の作業となりました。

熱心な受講生の皆様方のご協力により、安全に楽しく講習を、終了することができました。

インストラクターの自己紹介、本日の講座の目的と概要、使用道具の説明、安全管理と、長い話を聞いていただきました。

ストレッチで、体を動かしてから、現場に移動しての、作業となりました。二班に分かれての雨中作業になり、各々伐採木を決めて、諸道具を駆使して伐採し、かたづけ処分を、実践致しました。作業の終了のころは、雨も小やみになって、足取りも軽く管理事務所に帰り使用道具の、簡単な手入れをしました。

終礼では、雨天講習にも拘らず、『楽しかったです。』とのおことばをいただき、インストラクター冥利につかせていただきました。9 月の再会を楽しみにして、小雨の中、終了させていただきました。

(記 安部 善雄 ⑤)



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会のホームページをご覧ください。<http://www.tanzawasaisei.jp/>

◆県民参加の森林づくり 下刈り

日 令和元年 7 月 6 日(土) 7:50~15:00
 場 秦野市曾屋(弘法山公園)
 参 63 名(大人)
 市 秦野市環境共生課 腰塚様
 財 豊丸課長、大木様
 看 上田様
 イ L 水野⑭ 柏倉④ 滝澤⑤ 中村⑪ 森⑮ 鈴木⑧
 友谷① 西出⑫ 有坂⑧ 福島⑪ 永野⑥ (研修)小野寺⑮

前日まで天気が安定しませんでした、幸い曇り空で気温もそれほど上がらず、丁度よい気候となり秦野市曾屋の弘法山公園にて県民参加の森林づくり「下刈り」が開催されました。

8:40 秦野駅からバスで弘法山ふもと「めんようの里」に到着、秦野市環境共生課の腰塚様より、平成 28 年にイロハモミジ、ヤマザクラが植樹されてから 3 年目で初めての下刈りであること、植物が繁茂しており、ツルやトゲに注意をと紹介がありました。続いてオリエンテーション実施、上田看護師より、もしヒルがくつついても慌てないこと、水分・休息を適宜取り、熱中症にならないようにと注意がありました。ストレッチ体操後、大カマ等用具を配布して、63 名が 5 班に分かれて活動開始しました。

作業エリアは、道路に面した傾斜地です。背丈ほどに伸びており、参加者の方には、植樹木を切らないように、注意して刈り込んで上に向かって進むこと、お互いに距離を持って作業すること、適時休憩・水分補給するようお願いして作業を開始して頂きました。進む先はやぶの中、途中参加者の方から、何度も「切って下さい」と声が掛かり、直径 5cm ほど成長した雑木をノコギリ(他インストラクターの方から拝借)で倒しました。

参加者の中には初心者の大学生、高校生も参加しており、カマなど刃物を使用する時の危険性や常に周囲に気を配ることの大切さを話すことができました。ハチ退治もあり、今日の 2 時間の作業はあっという間に終了し、植樹木が見えるようになりました。

昼食後のミーティングでは、「やりがいがあった」、「また来たい」、という意見もあり、充実した時間を過ごして頂けたと思いました。反面、インストラクター反省会でも挙がりましたが、「下刈りでもノコギリがあると良い」との要望もあり、今後の検討課題とすべきと思いました。運悪くヒルにかまれた 5 名の参加者の方もありましたが、熱中症もなく無事に終了しました。

最後に、秦野市のご厚意により参加者全員「秦野名水富士見の温泉」を頂き、皆さんすっかり疲れも取れてさっぱりした顔をされていました。お疲れ様でした。(記 小野寺 孝夫 ⑮)

◆横浜市八景小学校 間伐体験

日 令和元年 7 月 7 日(日)
 場 相模原市緑区長竹 承継分収林
 参 83 名(小学生 70 名)
 財 古館様
 イ L:小野⑦、柏倉④、久保⑧、松山⑩、松石⑬、
 藺田⑬、牧石⑭、木村⑭、吉田⑪、前田⑬

天気予報では、小雨から雨 降水確率は 60%~90% の中当日直前まで学校側の責任者とリーダー間で、頻繁に連絡を取り合い、①間伐バージョン、②雨バージョンの両方で準備。当日の 10 時に最終決定を行う事になっていました。学校側での希望は、小雨でも行いたい子供たちは、長靴とカッパを用意させた事の連絡がありました。当日、集合時間の 1 時間前から、インストラクターが集まりだし、11 時前には全員集合。リーダーより学校側からの意向を聞く。現時点の天候は、曇り。時間天気予報と集まったインストラクターの意見を聞き、間伐決行の判断を下す。ただし間伐後のコースター作りは行わない事を確認し現地へ。

子供たちを迎えた時には、雨も降っておらず、インストラクター全員で迎える。直ぐに、班に分かれ全員にヘルメット、ゴーグル、小ノコ等を渡し注意事項の説明を行う。その後、山の中へ。間伐場所は、事前に除伐されており、空間が空いていましたが、除伐時の小枝が散乱しており滑りやすい状態。歩く時は、小枝に乘らない様に注意しながら作業を行った。各班 1 本ずつの間伐を行い、枝払い、玉切りを順番に全員で行った。

山の空気、ヒノキの断片の香り、ノコを引いた感触と木の倒れる瞬間(音)を体験して貰い満足顔でした。一人一人道具を返却中に、ポールに、今年生まれた 7mm 位のカツムリの赤ちゃんを見つけて、皆で、感激している顔が忘れられません。

間伐作業を行う判断では、かなりの迷いが有りましたが、学校側の強い要望とインストラクター全員の意見を統率して頂きましたリーダーの判断で実施。お疲れ様でした。インストラクター全員での終わりの会でも、みな満足をしていました。

(記 前田 弘美 ⑬)

◆横浜市立東中田小学校 間伐体験

日 7 月 9 日(火) 8:30~13:30 曇り
 場 長竹分収林
 参 先生 8 名、5 年生 76 名
 イ L 西出⑫、柏倉④、小野⑦、渡部⑦、小沢⑨、
 松山⑩、松本⑪、松石⑬、牧石⑭ 計 9 名

梅雨時で天候が気になりましたが、曇り空ながら降雨もなく、間伐体験が実施できました。子供達と愛川ふれあいの村で合流して、始めの会を行った後、バ

スで10分程の間伐場所の長竹に向かいました。到着後、道具を配布して、森の中の現場に入って、いよいよ間伐の開始です。作業手順の説明を受け、インストラクターの指示で、倒す木にロープをかけ、大鋸で受け口、追い口を作ります。そして、みんなでロープを引いて大きな木が倒れると、歓声と拍手が起きました。

当初、活動時間が短いために、コースター作りを割愛することも考えましたが、子供達の強い要望もあり、全員が香りのいいヒノキでコースターを作りました。間伐を終えて、ふれあいの村に戻り、和やかに昼食を取って、終わりの会を行った後、お別れしました。子供達は、貴重な間伐体験と自分で作ったコースターをお土産に、有意義な時間を過ごせたと思います。

(記 西出 健一 ⑫)



◆スカウト・フェスタ 2019 “水源の森づくり”啓蒙活動

日 令和元年7月14日(日)9:00～16:00 小雨
場 横浜市金沢区 海の公園草地上
スタッフ みどり財団 豊丸課長 三枝様
参 BS/GS 一般
イ 安倍⑤ 鈴木⑤

9.00 集合 打ち合わせ セット
10.00 開始
15.00 終了
16.00 設置用具片付け 報告

今回のキャンペーン内容
“紙芝居 クラフト 緑の募金 ガラポン”

神奈川 BS70 周年を記念行事の一環として、海の公園の海水浴場の後方、松林の中の草地上にテント設営。前夜からの雨で、テント前とテント内は、グシャグシャの状態。テント一張りなので、このテント内での狭さを感じたが、BS/GS 3 千名だが、何か閑散として大勢の参加者がいるとは感じられず。

小雨が時々降る中、BS/GS はグループで園内を移動する形で、グループリーダーの意向が強いため、来店者は少ない。

時折、誘いの声にも対応も反応なし。紙芝居・クラフトの定型をなくし、クラフトのみ OK にしたがそれでも来客は増えず。残念ながら予定通り 15 時終了。泥地と化した室内テント前も同様に参った。終了後、椅

子の足の泥落とし、テーブルの泥落としとして返却。過去の出展と異なり、最初で最後の出展は終了。

(記 鈴木 松弘 ⑤)

◆神奈川県立足柄ふれあいの村

「フォレスターキッズキャンプ①」:森の探検

日 令和元年7月20日(土)9:00～20:00、曇り一時小雨
場 神奈川県立足柄ふれあいの村
参 小学生29名(男16名、女13名)
スタッフ 足柄ふれあいの村2名、ボランティア5名
イ L:宮下⑩、波多野⑨、赤崎⑫、河西⑬

梅雨空のさなか雨を心配したが当日は曇り。何とかフォレスターキッズキャンプを開催。小学1年～3年の参加者は親に引率され、足柄ふれあいの村に到着。オリエンテーションでは、「森の探検」時の服装や持ち物、危険な生き物の話を行い、午後の探検に備えた。ネーチャーゲームを始めると、子供たちもだんだんと仲間意識が芽生えてきた。

午後からは、「森の探検」に出発。第1ポイントでは、目隠しをして樹木の幹に触れ、目隠しを外した後自分たちがどの木に触ったかをあて、木の種類によって幹肌が違うことを確認。第2ポイントは、自分の体の一部を使って木の太さを測る体験。メジャーが無くても太さを測ることができることが分かった。第3ポイントでは、木の枝や葉っぱが地面に落ちて分解し、土になり、それが養分になることを話し合った。第4ポイントのムササビの巣箱では、最初の班はムササビを発見。その後ムササビは巣の中に隠れてしま



い、あとの班は確認できず残念だった。第5ポイントでは、木にできた樹洞や食痕を発見。どのような鳥が使っているかを解説。第6ポイントでは、沢を流れる水の音を聞き、森に染み込んだ水が少しずつ流れ出し川となり、飲み水のもとになることを知った。第7ポイントでは、茂みに隠されたものを発見するゲーム。色や形が自然に近いものは発見しにくいこともわかり、擬態や保護色の話を行った。それぞれのポイントで、子供たちは熱心に体験に取り組み、また、いろいろな質問が飛び交った。特に、ムササビを発見した子供たちの感動は大きかった。途中観察した葉っぱの形や水の音の違いには新たな発見があったようである。「森の探検」は楽しかったとの感想もあり、事故もなく森の中で様々な体験ができた。

その後、ムササビの話では、大きさ、飛び方、止まり方、お家、食べ物、観察時間、動画による子育ての様子など多くのことを知ることができ、子供たちは熱

心に耳を傾けていた。夜のムササビの観察は、道が滑りやすく霧雨もあり、残念ながら取りやめ、ムササビに扮した村の方によるキャンドルファイヤーを楽しみ、また、ムササビグライダーを製作し、みんなでムササビの滑走距離を競い合った。キャンドルファイヤーでのムササビの登場、自分で作ったムササビの滑走体験は印象に残ったようである。

今回の「森の体験」を通して、森からいろいろなことを学べることを知り、森への親しみを深めることができれば、うれしい限りである。

(記 宮下 修一 ⑩)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目／NPO法人で初めて委嘱されています。

◆住原製作所 水と空気と環境の森/森林活動

日 7月20日(土) 10:00～15:30 曇り時々小雨
場 やどりき水源林
参 27名(大人:15名、子供:12名)
イ L西出⑫、井出①、若林⑦、白畑⑦、松本⑧、山下⑪、真貝⑪、長尾⑬ 計8名

梅雨空の下、時々小雨が降りましたが、ほぼ予定通り、活動を実施しました。開会式の後、午前の活動に入りました。丸太筋工(大人6名、子供1名)は、散策路脇に丸太を使って土留めを作る作業で、2ヶ所に設置できました。水生生物観察(大人3名、子供4名)では、子供達が川に入って幼虫を網ですくって、みんなで観察をしました。草木染(おとな4名、子供7名)では、午前中、染料の材料(アブラチャンなどの葉)を採取して煮込みました。昼食後、30分程、県職員による森林講話があり、その後、午後の活動に入りました。

草木染めは午前中の作業の継続で、煮込んだ染料に薬品とハンカチを入れて染め上げました。皆さん、出来上がったハンカチの模様を見せ合って、成果を楽しんでいました。草木染め以外の方は、全員、清流ウォーキングで、近くの滝でマイナスイオンを浴びてリラックスしてから、2班に分かれて、空を見上げながらゆっくり揺れるハンモック体験と、長い木の棒を川底に当てて音を聞く体験をしました。皆さん、楽しい思い出をお土産に、やどりき水源林を後にされました。

(記 西出 健一 ⑫)

◆横浜トヨペット労働組合 親子自然教室

〈水生生物観察・溪流ウォーク〉

日 令和元年 7月30日(火) 10:00～12:00 晴れ
場 足柄上郡松田町 やどりき水源林
参 社員や会員とその家族 44名
イ L牧石⑭ 水生生物観察:山崎⑦、古舘⑬
溪流ウォーク: 真部⑬、牧石⑭

梅雨が上がった蒸し暑い7月30日に、やどりき水源林で「横浜トヨペット労働組合親子自然教室」が開かれた。

参加した44名がA、Bの2グループに分かれ、Aグループは前半に水生生物観察、後半に溪流ウォークをBグループは前半に溪流ウォーク、という趣向に進められた。

水生生物観察では、やどりき沢に入って網で石の間の生き物を探った。親子そろって生き物採集に夢中になり、すくい上げた網に目を凝らしていた。清流に住むカワゲラ、トビゲラ、カゲロウの幼虫の他に、サワガニ、カジカガエルとそのオタマジャクシが多数採集された。

溪流ウォークは、幅の狭い所では水が迫っているところや滑りやすい石、太い木の枝が横に伸びて歩きにくい場所もあり、安全に配慮し慎重に歩いた。子供たちにとっては体験することの少ない溪流ウォークであったが、大人に見守られてとても楽しそうな様子がみられた。澄んだ水の流れと涼しげな水の音を間近に感じながら、大人も冒険心や開放感を味わいつつ、非日常のひとときを楽しんで頂けたように思う。

(記:古舘 信生 ⑬、真部 幸枝 ⑬)



森のめぐみの掲載は、
今月号はありません。
次掲載は10月号です。

森のめぐみ シリーズ

やどりき水源林ミニガイド

8 月のトピックス

8 月 3 日に「やどりき水源林のつどい」が開催されました。(記事は 10 月号に掲載予定)



暑い一日でしたが、たくさんの方に参加いただき盛会でした。

9 月の水源林

9/21 に「やどりきの森に行こう」が開催されます。右のイベント欄をご覧ください。

「森の案内人」情報

案内人も張り切ってお待ちしています。

- 実施時間: 毎週土曜・日曜・AM10 時・PM1 時, 1~2 時間程度
- 集 合: 水源林入口ゲート前
- 内 容: 森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。
- 参加自由、参加費無料
- *10 人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ: (公財) かながわトラストみどり財団 TEL: 045-412-2255 FAX: 045-412-2300
- ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>
<http://ktm.or.jp/contents/event/t27/yadorikih27.html>
E-mail: midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約 25 分。
バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩 35~40 分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

9 月 21 日 (土) 「やどりきの森へ行こう 第 2 回」開催

今回のテーマは「溪流に棲む生き物を探そう」。水棲生物観察と滝見学を行います。水の音をお楽しみ下さい。

小田急新松田駅北口 8:30 集合。駅前から水源林までバス利用 (運賃各自負担: 片道 620 円)

8:40 松田駅出発。15:10 新松田駅到着予定。

●往復がき、または E-mail で先着順にお受けします。9 月 7 日 (土) 締切。
お申し込みが 20 名に満たない場合は中止となります。

住所: 〒243-0018 厚木市中町 2-13-14
サンシャインビル 604

NPO かながわインストラクターの会
E-mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史 Mail: kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp
Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: cheriril@gk9.so-net.ne.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史
Fax: 0467-46-8650
電話連絡先: 080-5477-2206
Mail: kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp
【別冊】阿藤 寿孝
Tel: 045-433-4413
Mail: hisa-ato2@22.netyou.jp

原稿は随時受け付けています。

森のなかまは過去号もご覧になれます。
(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP 担当: 井出恒夫)

編集後記

★今年の夏も、同僚からお土産の菓子が集まりました。北は北海道から利尻昆布サブレ、信州わさび煎餅、越後の黒蜜きな粉もち、南は沖縄の紫芋タルト、出かけなくても日本の銘菓を味わえました。(笠原)

★これが発行される頃には暑さも随分と和らぎ過ごしやすい気候になっていると思いますが。今年の夏は、酷暑を超える暑さ。40度越えが各所で起こり、また台風の威力も過去最高。つくづく、温暖化で2度上がるなんてことじゃなくて、ブレが大きい。温度、風、雨など。太陽からのエネルギーは変わらないのに。(吉田)

★横浜: 鶴見に羅漢とエビネの寺として親しまれているお寺さんがあります。裏山を手入れしてて栗を見つけました! もうすぐ秋です。(阿藤)

★野辺山に寄ってきました。1300m超は日陰に入ると涼しかったです。信州には盆花のオミナエシやミソハギが天然で沢山咲いていました。しかし天然のキキョウは見られませんでした。心配です。(松本)

★川崎市内でセミの抜け殻調査を手伝い、ハマりました。夢中になり藪に入り、気が付けば蚊に刺されまくり…。未だ見つけられないクマゼミの抜け殻を夢にまで見ました。(竹内)

★今回から「森のなかま」の編集を担当しています。わからないことも多く、バタバタでした。(黒川)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。
郵便振替口座 00230-0-2454
かながわ森林インストラクターの会宛まで 2000 円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から 12 回 / 1 年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史
広報部: 吉田郁夫 松本 保
笠原かずみ 加藤優美
阿藤寿孝、竹内明彦
柳澤千恵美
支援: 伊藤恭造 大原正志 江頭淑子



(小山町ホームページより)

日時 令和元年9月8日(日)

午前 10 時 30 分から午後 3 時 30 分

場所 足柄峠・足柄城跡

笛などの演奏、小学生による綱引き

神奈川県南足柄市、静岡県小山町の共催です。詳しくは、各自治体ホームページを参照ください